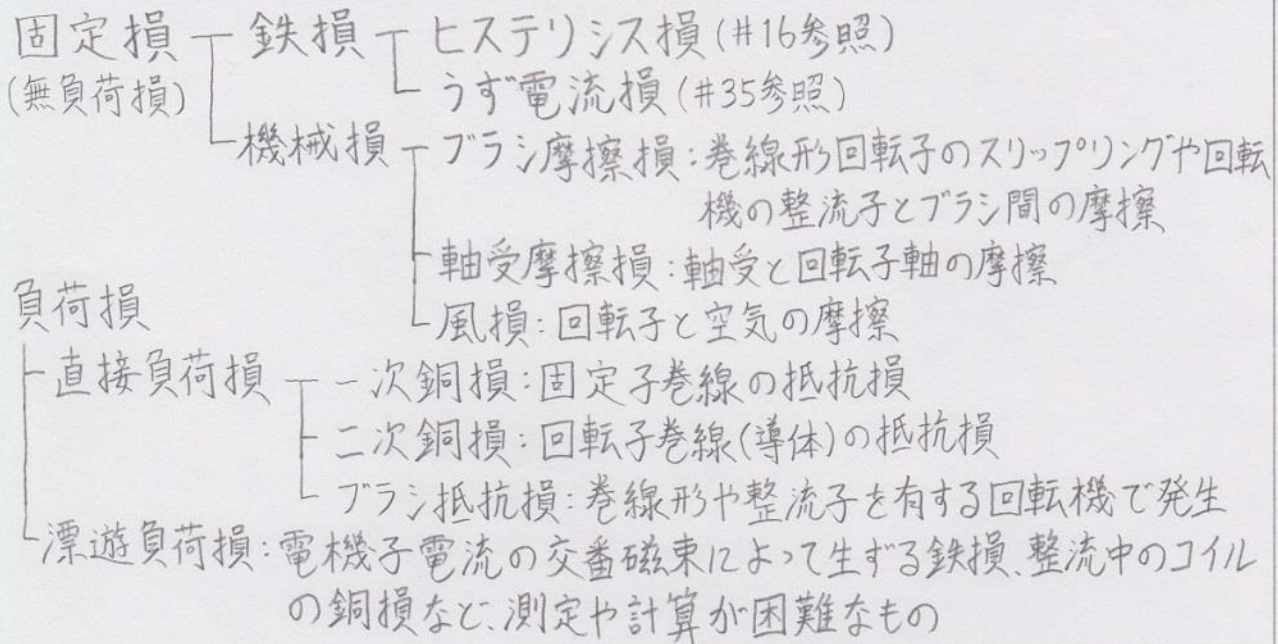


278. 損失と効率・抵抗法



・実測効率: 小容量場合、発電機は抵抗器負荷と、電動機はブレーキ、動力計、または効率の明らかな発電機を直結し、入力と出力を実測して効率を算定する(大容量の場合は返還負荷法を用いる)

・規約効率: 回転機の電氣的な入力(電動機)または出力(発電機)の測定値と、無負荷損の測定値、および負荷電流と回路抵抗から計算によって求めた負荷損(漂遊負荷損を含む)の規定値から、次式により効率を算定する

$$\text{発電機: } \frac{\text{出力}}{\text{出力} + \text{損失}} \times 100[\%] \quad \text{電動機: } \frac{\text{入力} - \text{損失}}{\text{入力}} \times 100[\%]$$

抵抗法(温度上昇の測定法): 電気機器の温度上昇試験の前後における巻線抵抗の変化を測定して、巻線の局部的でない平均温度上昇を算定する



理論でやたヒステリシス損とうず電流損がここで再登場

ちなみに固定損、負荷損の他に励磁損という物も有るけれど、三種だから省略

損失は同期機の時にも説明してても良かったんだけど...

